

学校新聞 芥川

2年生沖縄修学旅行

第2学年 担任団

10月29日から31日まで、2年生は沖縄に修学旅行へ行きました。41期生は事前に、沖縄の文化や食生活を調べてまとめたり、平和学習をしたりして、修学旅行への準備を進めました。感染症の感染拡大が続く中、沖縄に行くかどうか、判断が難しい状況が続きました。直前になってからも軽石の影響が心配されるなど、修学旅行直前まで心配は尽きませんでした。なんとか無事に沖縄に行くことができたので、旅先で温かく迎え入れてくださった方々、旅行全般をサポートしてくださった旅行業者の方々、修学旅行委員や有志のみなさん、ご家庭の協力、いろんな人に支えられた修学旅行であったと思います。旅行中は天気にも恵まれ晴れが続きました。後日、「楽しかった」とたくさん聞けたことが、担任団としても大変うれしく思っています。選択体験を多く実施しましたので、旅程はそれぞれ異なります。旅程の概要を、担任9名で分担してご報告いたします。

1日目

朝早い集合でしたが、楽しみで仕方がない様子で早速友達と写真を撮るなど、元気がいっぱいな様子でした。飛行機の離陸時には歓声が起るなど、いぶんとにぎやかな様子でした。現地に到着すると暑いぐらいで、建物や景色も関西とはずいぶん違って、準備段階から不安だっただけに、やっと沖縄に来られたんだなあ、と感激しました。飛行機後発組は沖縄ワールドではさっそく沖縄名物タコライスを食べたこと、これが一番おいしかった、という感想の人もいろいろあり好評でした。南国の植物を見たり、玉泉洞でライトアップされた地底を歩いたり、沖縄ならではのエイサーのショーもあり、見どころたくさんで時間が足りないぐらいでした。次に首里城を訪れましたが、残念ながら門だけで建物はまだ基礎工事の段階でしたが、眺めも良く公園の散策を楽しみました。

ホテル

ビーチ沿いの沖縄で一番収容人数の多いホテルに宿泊しました。部屋によっては最高のオーシャンビューを見ることができました。部屋は広く、その快適さにみんな大喜びの様子でした。

朝食、夕食のバイキングの味も抜群で、何度もおかわりする人もいました。なんやかんやでホテルで過ごす時間が一番楽しかったという人も多いのではないのでしょうか。

マリントレーニング

瀬底島とホテル前ビーチ二班に分かれてのマリントレーニング。軽石漂着の影響で瀬底島ビーチは、現地の方がゴリラチャップと呼ぶビーチに変更となりました。開校式の後、三つのグループに分かれて、シムラ・ケリン・バナナ・ポート・ビーチ遊びを順に体験。慣れないマスクに足ひれ、インストラクターに手伝ってもらいながら装着し、いざ海へ。潮の具合もちよとよく、手の届くところにカクレクマノミをはじめ沢山の魚たち。「ずいぶんきれい」と感動する生徒に、瀬底島より実はこちらのほうが魚群は多いのですよ。とインストラクターもにっこり。いったん海から上がって次はバナナポート。仲間と一緒にボートにまたがり、少し緊張気味の面々。水上バイクが徐々にスピードを上げるとともに大きな歓声。顔にしぶきを浴びながらスリリングなコーナーリングの連続。「面白かった」と興奮気味に語る生徒の姿が印象的でした。青い空、青い海、サンゴに群れる色とりどりの魚たち。思い描いていた沖縄を満喫したプログラムでした。



ニライカナイ

選択コースで鍾乳洞を訪ねました。「命を渡した洞窟」という意味を持ち、沖縄県の方言で「ぬらしぬじガマ」と呼ばれる場所に行きました。激しい沖縄戦の中で300人の住民が避難する中、戦闘による犠牲者は無く1人も命を落とすことなく助かったそうです。修学旅行事前学習として沖縄戦を学んでいたため、実際にガマに入り、沖縄の方から沖縄戦の話を伺い、直に体感することができました。



沖縄美ら海水族館

2日目の午後、59名がバスに分乗し、沖縄美ら海水族館へ向かいました。初日の疲れが残っていたのか、はたまた午前中の体験活動で疲

れていたのか分かりませんが、車内はとても静かでした。しかし館内に入ると、変わった色や形をした魚たちやクラゲの美しさにうっとり。やがて巨大な水槽が現れました。出た、ジンベエザメです。悠々と泳ぐ姿に圧倒されながらも、一同カメラを向けることを忘れません。また、イルカショーでは国内最長飼育記録46年の「オキちゃん」の姿に癒されました。敷地内では、きれいな色をした蝶々がたくさん飛んでいました。屋外のエスカレーターが潮風の影響でキシキシと音がることにも驚きました。そして、大きな「チンアナゴのぬいぐるみ」などお土産を買いました。再びバスに乗りホテルへと帰りました。



学年レク

2日目の夕食後は学年レクを行いました。今回の修学旅行の中では唯一全員で楽しむ企画です。ミュージックステーションのオープニング曲とともに司会者が入場し、幕を開けました。最初は、有志のダンスや歌のパフォーマンスです。かっこいいダンスや歌を披露してくれました。声援を送れないのが少し残念そうでしたが、普段一緒に過ごしているクラスメイトの新たな一面が見られる機会になったのではないのでしょうか。続いて、「イントロドン」「先生クイズ」を行いました。これは短い準備期間の中で修学旅行委員が協力して準備してくれた企画です。どちらもクラス対抗で早押しで答えるクイズ形式です。先生たちの意外なエピソードや昔の写真に驚いている人も見受けられました。優勝したのは4組のみなさん、おめでとうございました！



3日目

1・8組【万座毛、ビオスの丘】晴天に恵まれ、見晴らしの良い万座毛で深呼吸。ビオスの丘では遊覧船に乗ってガジュマルなどの沖縄の植物を観察しながらゆったりと「島時間」を満喫しました。

2・4・5・9組【アメリカンビレッジ】目印は巨大な観覧車！買い物するにも食事するにも魅力的なお店がいっぱいで時間が足りない！中には面白い物袋や買ったばかりのスイーツ

を持ったままバスまで猛ダッシュした生徒も。3組【ティーヌ浜ハートロック、古宇利島オーシャンタワー】漂着していた軽石も何のその、各自工夫してしっかりと「映える」写真を撮りました。オーシャンタワーからの海の眺めの美しかったこと！

【6組紅芋タルト作り】オーシャンビューの部屋で沖縄特産の紅芋を使ったタルトを製作。6組貸し切りで和気あいあいと楽しく作りました。よいお土産になりました。最終日も快晴。修学旅行の最後の楽しみは、国際通りでの自由行動でした。疲れているはずなのに、41期生のパワーは底知れぬ。まだまだ沖縄を満喫しようとする姿がみられました。また、自由行動というのも、これまでになく経験で、見知らぬ土地をワクワク散策しながら過ごしていたようです。さすが、高校生！SNSで上手に情報を見つけ、おいしいご飯やスイーツを堪能していました。そして、両手にはお土産がたくさん。自分用、家族に頼まれたもの、後輩用、お土産選びも一大イベントですね。国際通りには、紅芋タルトの絵が描かれた黄色と紫の色鮮やかなショッピングバッグを持っている41期生が至る所にいました。集合時間を気にしながらも、最後の瞬間まで沖縄の空気や景色を楽しみることができました。

まとめ

夏休み明け、緊急事態宣言が出され、コロナ禍で大変な沖縄もあらゆる面で厳しくなっている。本日に修学旅行に出発することができたのだろうか？また、出発直前には、沖縄周辺に軽石が漂着し体験学習の実施が危ぶまれるなど不安材料は少ないが、保護者の皆様のご理解とご協力をはじめ、いろいろな方々の手助けのもと修学旅行当日の朝を迎えました。

空港の集合場所に次々と集まってくる生徒たちの姿を見て、やっと修学旅行に出発できるのだと実感することができました。現地では、二泊三日と短い期間ではありましたが沖縄の大自然や文化、大阪では見られない景色などに触れ、また、普段学校では見られない生徒たちの様子を見るにつけ本日に修学旅行が実施できたことに対する感謝の気持ちの底から湧いてきました。そして参加者全員が無事、大阪に戻ってきて保護者の皆様のもとに帰っていき後姿を見て、この修学旅行が成功であったと強く感じました。

最後に、生徒たちがこの修学旅行で一回りも二回りも成長し、ここでの体験や経験がこれからの学校生活でも生かされることを願って止みません。